横浜ユーラシア文化館 企画展 Special Exhibition

横浜マニラ姉妹都市締結50周年記念事業

貿易都市マニラの栄光

考古学が語る太平洋航路の成立と発展

Glorious Port City Manila: through the Archaeological Excavations

2016年1月30日（土）～4月3日（日）
Saturday 30 January to Sunday 3 April 2016

古くから海上貿易の要衝だったマニラ。ヨーロッパが未知の世界に向けて大規模な航海を繰り広げた16世紀には、アメリカ大陸を経由してアジアとヨーロッパをつなぐ貿易都市として重要な地位を占めるようになります。この企画展では、フィリピン国立博物館所蔵の考古学的資料約60点から当時のマニラの繁栄をご紹介します。

Collection of the National Museum of the Philippines

会　場　3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料　一般300円、小・中学生150円
Admission : ¥300 for Adults,
¥150 for primary and junior high school students

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

開館時間　9:30 a.m.～5:00 p.m.（券売は4:30 p.m.まで）
2015年4月1日から2016年3月31日まで、平日の水曜日は7:00 p.m.まで開館時間を延長いたします。（券売は6:30 p.m.まで）

休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）
年末年始（12月28日～1月3日）他
2016年1月29日（金）は、展示替えのため休館します。

観 覧 料　一般200円、小・中学生100円
特別展・企画展開催中は料金が変更になることがございます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」、横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

Hours　9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)
Wednesdays (except holidays) April 2015 to March 2016, 9:30 a.m.-7:00 p.m.
(Admission until 6:30 p.m.)

Closed　Mondays (except holidays) , year-end/New Year's recess (28 Dec. to 3 Jan.) and 29 Jan. 2016 (change of exhibition)

Admission　¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
ＪＲ「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」1番出口から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal Subway.

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/

News from EurAsia No. 24　横浜ユーラシア文化館ニュース　第24号　2015年12月28日
企画・編集・発行／横浜ユーラシア文化館　デザイン／竹下秀未　レイアウト／長瀬雅子　印刷製本／株式会社佐藤印刷所

禁無断転載　©2015 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News *from* EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング
Art Watching　2
青花磁片象嵌文土器
Blue and White Porcelain Chip-Inlaid Vessel

ギャラリートーク
Gallery Talk　4
冊子本『ライラとマジュヌーン』断片
Fragment from *Layla and Majnun*

蔵品紹介 ー常設展示室からー
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition　6
多彩釉細刻線草葉文鉢
Bowl with Multi-Color Glazes and Incised Decoration

収蔵資料を検索してみる
Search Collection　8

催し物案内
Exhibitions and Events　10

No. 24

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

Art Watching

青花磁片象嵌文土器

せいかじへんぞうがんもんどき

Blue and White Porcelain Chip-Inlaid Vessel

畠山禎　Tei Hatakeyama

両手のひらにすっぽり収まる赤褐色のかわいらしい壺形土器です。張り出した肩には環形の把手が二つ付き、底には低い圏足があります。胴部には、垂直方向にかすかな畝があり、白く輝く硬質のものが埋め込まれて、土器を装飾しています。この装飾をよく見ると、白の中にうっすらと青い色彩を見つけることができます。これは、青花と呼ばれる磁器の破片です。

この土器は、1600 年 12 月 14 日にマニラ湾近くで沈没したサン・ディエゴ号というスペイン船に積み込まれていたものです。当時ヨーロッパの強国であったスペインは、アメリカ大陸を経由してアジアからヨーロッパへ物資を運ぶ貿易路を確立しつつあり、マニラはアジアにおけるその拠点でした。サン・ディエゴ号からは、中国の磁器、ヌエバ・エスパーニャ（現メキシコ）の銀貨、ヨーロッパのガラス器、日本の刀の鍔などが発見されています。

サン・ディエゴ号沈船遺跡出土
1600年以前
高11.0 cm　最大径8.5 cm
フィリピン国立博物館蔵
From the San Diego wreck site
1600 or earlier
H. 11.0 cm, max. D. 8.5 cm
Collection of the National Museum of the Philippines

フィリピンや現在のメキシコには、今に続く土器作りの長い伝統があり、この土器もどちらかの地域で作られたと思われます。一方、装飾に使われている青花は、白にコバルトの青で文様を施した磁器で、中国の景徳鎮のものが有名であり、世界中に輸出される人気の高い高級品です。破片となっても美しい外国製品を伝統的な土器の世界に取り入れて生まれた、この時代ならではの製品といえましょう。外国の様々な文物が行き交う港町。その一方にある伝統的な生活。当時のマニラの様子を彷彿させます。

This is a reddish-brown earthenware vessel with two loop handles and a low ring foot. It is decorated with small white pieces. Looking closer, you can find blue in the white. These are chips of porcelain ware.

This vessel was excavated from the San Diego wreck site. The San Diego was a Spanish ship that sank near Manila Bay on December 14, 1600.

Spain opened the trade route from Europe to Asia via Latin America in the sixteenth century, and Manila was a center of Spanish activity in Asia. Various foreign goods were excavated from the San Diego wreck site, such as Chinese porcelain ware, silver coins from New Spain (now Mexico), European glassware, and the guard of a Japanese sword.

This vessel was made in the Philippines or Latin America where the tradition of pottery making is still practiced today. Meanwhile, porcelain was imported mainly from China. Chinese blue and white wares were favored and considered luxurious throughout the world at that time. With a vessel such as this one, it could have been the case that a traditional pottery maker was fascinated by imported luxuries that were broken but still beautiful.

This vessel is reminiscent of the state of the international port city of Manila at the end of the sixteenth century.

GALLERY TALK ギャラリートーク

冊子本『ライラとマジュヌーン』断片

Fragment from *Layla and Majnun*

福原庸子　Yasuko Fukuhara

『ライラとマジュヌーン』は、ペルシアの詩人ニザーミー・ガンジャヴィー（1141?-1209?）が、アラブ遊牧民の素朴な伝説をもとにペルシア神秘主義文学として完成させた大作で、イスラーム圏で広く親しまれてきた悲恋物語詩です。主人公は、美しい乙女ライラに恋するあまり常軌を逸し、マジュヌーン（ジンに取り憑かれた者、狂人）と化す青年カイス。俗世を避けるように沙漠を放浪し、寝食も忘れて孤高の愛を昇華させていく彼の姿が、絶対者（神）との合一を求道する行者と重なり合うように綴られています。

ここに紹介する作品は、観賞用に冊子の一部を切り取り、台紙に貼り付けたものです。描かれているのは、街中に広まったマジュヌーンの噂に心を打たれ彼を救おうと沙漠を訪れたバグダードの富豪が、ようやく主人公に巡り合う場面です。画家は、やせ細った体を硬直させ、鋭い眼光で頑なに訪問者を拒むマジュヌーン（手前右）と、身を乗り出して熱心に説得を試みる裕福な訪問者サラームと従者（手前左と右奥）を対比させ、それぞれの葛藤を見事に捉えています。さらに、マジュヌーンの腕には細さを強調したり位置を修正した下書きの線が残り、画家のこだわりが感じられます。このように、人物の内面にまで迫るような表現力は、人形のように無表情な人物像を特色とする伝統的なペルシア細密画には見られず、本作品が特出している点です。

画面は、素描のように墨線で描かれていますが部分的に淡い彩色があり、マジュヌーンの腰帯および訪問者の被り物と服の一部には金泥が引かれています。また、ナスタァリーク体で書かれたテクストを囲む赤い枠は下書きのままで金泥が引かれておらず、この作品が未完成であった可能性を窺わせます。

イスラーム教は本来、人物や動物を描くことに否定的だと考えられていますが、それぞれの時代の支配者や法学者に解釈が任されていたため、規制の厳しい時代や比較的穏やかな時代がありました。イスラーム期のイランで13世紀以降発展し16世紀には黄金期を迎えた写本芸術は、細緻な筆致と華麗な彩色を特徴としますが、本作品のように繊細な墨線を主とした描法は、欧米のコレクションに16世紀後半以降の作例が散見されるものの、非常に珍しいものです。当館では、企画展「ユーラシア　筆の軌跡―江上コレクションを中心に―」（2015年秋）にて本作品を初公開しました。

Layla and Majnun is a narrative poem composed by the renowned Persian poet Nizami Ganjavi (1141?-1209?) based on ancient Arabian romance. This fragment (exhibited Fall 2015) depicts the scene where Majnun, driven "crazy" due to his unrequited love for Layla, receives wealthy visitors from Baghdad who wish to save him from his reclusive life in the wilderness. But the emaciated youth, with a determined look on his face, turns down the proposal of the gentlemen, whose earnest concern is shown in their posture. The artist is a virtuoso in the representation of human psychology and the delineation of delicate forms. This work belongs to a less-known category of Islamic-Persian miniatures, namely, monochrome drawings, which have a greater realism than the heavily colored paintings. A handful of such examples are known in the Western collections.

紙本墨画淡彩金泥
イラン　17世紀以降
縦8.6 cm　横14.5 cm

Ink, transparent watercolor, and gold on paper
Iran, 17th century or later
H. 8.6 cm　W. 14.5 cm

The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

蔵品紹介－常設展示室から－

多彩釉細刻線草葉文鉢

Bowl with Multi-Color Glazes and Incised Decoration

竹田多麻子　Tamako Takeda

白い背景に緑色と褐色が映えるこの陶器。中国の唐三彩を彷彿させますが、10～11世紀にイランで製作されたものです。緑、黄、褐などの2色以上の色釉を施して焼いた唐三彩と似ているためペルシア三彩とも呼ばれています。

底部を見てもわかるように、この鉢の素地はもともと茶色でしたが、その色を隠すために白い化粧土が鉢の内面と外面に施されています。内面には釘のような道具で草葉や渦巻きの文様が細い線で刻まれ、その上に緑色と褐色の釉薬をかけ、最後に透明釉が内側にかけてあります。焼成時に鉢を片側に傾けたので、釉薬は上から下に流れ、特に緑釉は下に厚くたまっています。釉が溶けて流れだした跡は偶然とはいえ、器に趣ある表情を与えています。

このような多色の色釉を施した陶器はイランだけではなくイラク、エジプト、中央アジアなどから出土していますが、特に刻線の文様をつけるのがイランの特徴です。

This bowl with green and brown decoration bears a resemblance to Tang Chinese *sancai* wares, but it was manufactured in Iran between the 10th and 11th centuries.

The clay used for this piece is brown, but white slip has been added to both the inside and outside of it to hide its original color. The leaf and spiral designs were scratched into the interior of the bowl before the green and brown glazes were applied; and finally, a transparent glaze was spread over the inside of it.

With the bowl being stood upright in the firing stage, the glaze flowed from the top to the bottom, where the green glaze collected thick. The traces where glazes melted and flowed out were accidental, but they gave an artistic expression to this bowl.

Such pottery with multi-color glazes has been unearthed in Iraq, Egypt, Central Asia and Iran. However, this particular piece with its incised design is uniquely representative of Iran.

イラン
10～11世紀
口径18.0 cm　高8.0 cm
Iran
10th-11th century
D. 18.0 cm H. 8.0 cm

収蔵資料を検索してみる ●Search Collection

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/collection.html

横浜ユーラシア文化館では約2500点の考古・美術・歴史・民族資料と約25000点の文献資料を収蔵しており、ホームページでは、これらの資料に関する様々なデータベースを公開しています。通常の展示ではできない、ウェブならではの特徴を活かしたデータベースです。

研究を目的とする方はもちろん、ユーラシアの歴史、美術、文化に関心をお持ちの方もそれぞれの使い方でこれらのデータベースをご活用頂ければと思います。是非お試しください。

1 収蔵資料検索

常設展示室のコーナーごとに公開している資料を見ることできます。展示ケースごしではわからないガラス容器の裏側や蓋を開けた小箱の内部などの画像もご覧頂けます。順次、更新していきます。

2 蔵書検索システム（OPAC）

当館で所蔵する国内、国外の図書、雑誌、図録、漢籍を検索できます。図書等の熟覧を行っていますのでお問合せ下さい。

＊熟覧には事前申請が必要となります。

＊コピーサービスは行っていません。

3 オロンスム文書データベース

オロンスム文書とは、中国蒙古自治区にあるオロンスム遺跡から発見された16～17世紀のモンゴル語で書かれた仏典を中心とする文書群。当館では、1930～40年代に、江上波夫を中心とする日本隊がオロンスムで採集した130片あまりのモンゴル語文書断片を保管しています。このデータベースでは、それぞれの文書に画像、寸法、モンゴル語の翻字（モンゴル語の音をローマ字に置き換えたもの）がつけられています。モンゴル語（翻字）での単語検索もできます。

4 楔形文字粘土板文書データベース

このデータベースでは、当館が収蔵する326点の楔形文字粘土板文書のデータ（製作地、年代、日付、寸法、翻字、和訳など）をウル第3王朝時代（前2100-2000年頃）の王名ごとにご覧いただけます。また、「じっくり見てみよう！」では、特に興味深い11点の粘土板文書をより詳しく解説しています。「ガラスビュー」という機能を使い、それぞれの楔形文字に対応する翻字（楔形文字の音をローマ字に置き換えたもの）と和訳が同時に表示されるようになっています。「くわしく知ろう！」では、楔形文字や粘土板文書、メソポタミアに関する基礎知識をご紹介しています。

企画展 3F

横浜マニラ姉妹都市締結50周年記念事業
貿易都市マニラの栄光ー考古学が語る太平洋航路の成立と発展
Glorious Port City Manila: through the Archaeological Excavations

2016年1月30日（土）～4月3日（日）
Saturday 30 January to Sunday 3 April 2016

古くから海上貿易の要衝だったマニラ。ヨーロッパが未知の世界に向けて大規模な航海を繰り広げた16世紀には、アメリカ大陸を経由してアジアとヨーロッパをつなぐ貿易都市として重要な地位を占めるようになります。この企画展では、フィリピン国立博物館所蔵の考古学的資料約60点から当時のマニラの繁栄をご紹介します。

会　場　3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料　一般 300 円　小・中学生 150 円
Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students

サン・ディエゴ沈船遺跡の調査
画像提供 フィリピン国立博物館
Excavation at the San Diego wreck site
©National Museum of the Philippines

青花皿　サン・ディエゴ沈船遺跡出土
1600年以前
フィリピン国立博物館蔵
Plate from the San Diego wreck site
1600 or earlier
Collection of the National Museum of the Philippines

ギャラリートーク

日　時　2/7（日）、2/21（日）、2/24（水）、3/6（日）、3/20（日）、3/30（水）
（水）18:00 ～、（日）11:00 ～
各回 30 分程度
参加費　企画展観覧料のみ

関連講演会

考古学から見たマニラ

講　師　田中　和彦（上智大学言語教育研究センター講師、フィリピン国立博物館研究員）
日　時　2月13日（土）14:00 ～ 15:30（受付13:30 ～）
会　場　情文プラザ　横浜情報文化センター1階（当館に隣接）
受講料　500円（企画展招待券付）
定　員　80名（申込み多数の場合は抽選）
申込み方法　住所、氏名（フリガナ）、電話番号を明記の上、往復はがき、または当館ウェブサイトからお申込みいただけます。
申込み先　〒231-0021横浜市中区日本大通12
横浜ユーラシア文化館
企画展「考古学から見たマニラ」講演会係
申込み締切　2016年2月2日（火）必着

ワークショップ

東西貿易地図ぬりえ
ペーパークラフト帆船作り

見学の後はワークショップで展示の復習はいかが？航路地図のぬり絵や、当時の帆船のペーパークラフトで遊びながら学習できます。小さなお子さんでも楽しめる折り紙もあります。

日時　企画展開催中の土曜日、日曜日、祝日　9:30 ～ 16:30
料金　無料

関連展示 2F

横浜マニラ姉妹都市締結50周年
The 50th Anniversary of Sister City Relationship between Yokohama and Manila

2016年1月30日（土）～4月3日（日）
Saturday 30 January to Sunday 3 April 2016

姉妹都市締結の書類やそのきっかけとなった1964年マニラ市長横浜訪問の写真などを展示。

会　場　2階常設展示室（一部）
Permanent Exhibition Gallery
観覧料　一般 200 円　小・中学生 100 円
Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students
企画展観覧券でもご覧いただけます。

写真展 1F

フィリピンを掘る-フィリピン考古学を支えた日本人
Excavation in the Philippines: Photographs by Japanese Archaeologists

2016年1月30日（土）～4月3日（日）
Saturday 30 January to Sunday 3 April 2016

フィリピン考古学の発展につくした日本人研究者の調査写真を展示します。

会　場　1階ギャラリー　Gallery
観覧料　無料　Admission Free

ラロ貝塚の発見 1971
Discovery of La-lo Shell Midden in 1971

PHOTO YOKOHAMA

フィリピンの教会建築
Church Architecture in the Philippines

2016年1月30日（土）～4月3日（日）
Saturday 30 January to Sunday 3 April 2016

世界遺産にもなったフィリピンの教会と日本人も協力するその保存活動を写真で紹介します。

会　場　1階旧第1玄関　Former Entrance Hall
観覧料　無料　Admission Free

マニラ大聖堂　田中和彦 撮影
Manila Metropolitan Cathedral-Basilica
Photograph by Kazuhiko Tanaka

PHOTO YOKOHAMA

イベント

ゲルに集まれ！「スーホの白い馬」の世界へ Welcome to the Mongolian Ger!

ゲルの組立て：2016年2月27日（土）10:00から
Saturday 27 February 2016
公開期間：2016年2月27日（土）～3月13日（日）
Saturday 27 February to Sunday 13 March 2016

当館中庭にゲル（モンゴルの移動式住居）が登場！ゲルの中もご覧頂けます。ゲルの組立て、解体作業の一部にはお客様も参加できます。どうぞご見学、ご参加下さい。

会　場　中庭
観覧料　無料
時　間　9:30 ～ 17:00
＊初日は組立て終了時から、3月13日（日）は16:30まで公開。
＊月曜休館日はゲルもお休み。

開館祭2016 13th Anniversary Events

2016年3月12日（土）、13日（日）
Saturday 12 and Sunday 13 March 2016

2003 年 3 月 15 日に開館した当館も、2016 年で 13 年目を迎えます。全館無料のこの 2 日間、モンゴルの楽器馬頭琴の演奏会やお話し会、民族衣装の試着体験など楽しいイベントを企画して皆様をお待ちしています。

臨時休館のお知らせ	展示替えのため、2016年1月29日（金）常設展示室は休室いたします。